



山鹿市民医療センター広報紙

ひびき

第26号

2013.6.1

発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿 511 番地 TEL 0968-44-2185 (代) FAX 0968-44-2420

患者様の権利と責務

- ① すべての人は平等に必要な最善の医療を受ける権利があります。
- ② 病気についてわかりやすく説明を受ける権利と、それらを受けるかどうかを選択する権利があります。
- ③ 検査や治療に関する説明を受ける権利と、それらを受けるかどうかを選択する権利があります。
- ④ カルテの内容を知る権利があります。
- ⑤ プライバシーを尊重される権利があります。
- ⑥ 患者様は病院の規則を守る責務があります。

「看護の日」

「看護の日」とは、近代看護を築いたナイチンゲールの誕生日（5月12日）を「看護の日」と定め、看護の心を広く伝えるための催しで、全国で開かれています。

当院では5月15日（水曜日）に、1階待合ロビーで「看護の日」の催しを開催いたしました。

身長・体重・体脂肪・血圧・血糖などの測定を行い、栄養士による栄養指導や看護師による看護相談、糖尿病相談、社会福祉士による福祉相談、理学療法士によるリハビリ相談、また介護福祉用品の展示・相談を行いました。10時から12時までの2時間の催しでしたが、約50名の方にご参加いただき、「自分の健康状態の把握ができてよかった。」「相談事をよく聞いていただき、説明をしていただいた。」「ナースの優しさに驚きました。」などのご感想をいただきました。次年度も新たな企画で、看護の心を広く伝えたいと思います。（飯田記）



基本理念

いのち

地域住民の命と健康への貢献

基本方針 山鹿市民医療センターは

- ① 患者さま中心の信頼される医療を行います
- ② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
- ③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
- ④ 研修、研鑽に務め医療レベルの向上を図ります
- ⑤ 健全経営に務めます

CONTENTS

「看護の日」 P1
 新職員紹介 P2
 HbA1c検査値の国際標準化移行時の注意点 ... P2
 緩和ケア病棟「家族会」を開催して P3
 がんピアサポートのご案内 P3
 外来担当医表(6月) P4
 特殊・専門外来(6月) P4
 各専門職の立場から P4

新任職員紹介



眼科

田原 仁

このたび4月1日付けで、当センターに赴任いたしました田原仁と申します。平成15年熊本大学医学部を卒業し、眼科医として熊本大学医学部附

属病院、熊本赤十字病院、国立病院機構熊本医療センター、公立多良木病院、くまもと森都総合病院に勤務し、眼科診療に携わっておりました。

今回、当センターに赴任することとなり、少しでも山鹿市の地域医療に貢献できればと考えております。至らない点もあるかと思いますが、宜しくお願い致します。

HbA1c検査値の国際標準化移行時の注意点

臨床検査科 野中 裕直

主に糖尿病検査に用いられるHbA1c（ヘモグロビン・エーワンシー）は、赤血球の蛋白であるヘモグロビンとブドウ糖が結合したもので、検査日から過去1～2ヵ月の血糖値の平均を反映する指標となります。瞬間値である血糖値（グルコース）とは異なり、検査前の食事や運動などの影響を受けないため、たまたま血糖値が正常で見逃しやすかったケースでも糖尿病を発見・予防するために、信頼性の高い検査であります。しかし、HbA1cの値は「JDS値」と「NGSP値」の2つがあり、「JDS値」は日本で決められた条件に従って測った値、「NGSP値」は主に米国で決められた条件に従って測った値という訳で、日本の「JDS値」は「NGSP値」に比較して約0.4%低い値となっていました。日本以外のほとんどの国で使われているのは「NGSP値」であり、事実上の世界標準となっています。そこで日本でも昨年2012年4月1日より、国際標

準化を進めるため日常診療で新しいHbA1c（NGSP値）が併用されるようになりました。従来の「JDS値」と「NGSP値」両者の間には0.4%の差があるため、JDS値とNGSP値を取り違えて「HbA1cが悪くなったと勘違いされたり、血糖コントロールの指標が上がることで治療目標が甘くなった」と誤解を招く恐れがありました。本年2013年4月1日から当院においても国際標準値「NGSP値」のみを報告するシステムに変更を行い、よりわかりやすい診療支援ができるようになったと思います。一般的に“糖尿病は怖い病気”と認識はされていますが、HbA1cの値について認識が進んでいないのが現状ではないかと考えます。糖尿病予備軍あるいは境界型といわれている人や通院している人も、HbA1cの値が次第に高くなってきているなど、不安を感じたら医療機関・かかりつけ医師に相談することが大切です。

当院でのHbA1cの正常値

| HbA1c報告値 | ～2012年3月 | 2012年4月～2013年3月 | 2013年4月～ |
|----------|-------------|-----------------|-------------|
| JDS値 | 4.3～5.8 (%) | 4.3～5.8 (%) | 報告不要 |
| NGSP値 | 未使用 | 4.7～6.2 (%) | 4.7～6.2 (%) |

緩和ケア病棟「家族会」を開催して



緩和ケア病棟が開棟し一年が経ちました。この一年で102名の患者様の看取りを行い、ご家族とも同じ時間を共有させて頂きました。ご家族は大切な人を失うことで大きな悲しみを持つこととなります。これを「悲嘆（グリーフ）」と言い、長期に渡って特別な精神状態の変化を経ていきます。ご家族は体験を乗り越え、やがて故人のいない環境に適応し、新しい関係を作っていかなければなりません。この悲嘆のプロセスを、「グリーフワーク」と言います。そして、グリーフワークのプロセスを支えて見守ることを「グリーフケア」と言います。当病棟では亡くなられた患者様のご家族を対象に、グリーフケアの一環として「家族会」を開催し、今までの辛かったことや、言えなかった思いなどを当院スタッフに話すことで、心の重荷を少しでも降りて頂く事が出来るようにお手伝いをさせて頂いていま

す。今年の3月23日に第一回目の家族会を行いました。ご家族それぞれに、涙ながらに色々な思いを表出されたり、お互いに励まし共感される姿も見られ、最後は皆様笑顔で帰宅されました。今後も当病棟の理念でもありません「患者様ご家族がいつでも泣ける場所」「最期まで笑える場所」を提供できるように、患者様同様ご家族へのケアも大切にしていきたいと思ひます。

緩和ケア病棟 看護師
本田 和代



がんピアサポートのご案内



『がんピアサポート』という言葉をご存知ですか？ピア（Peer）は仲間、同等という意味の英語です。ピアサポートは同じような境遇やよく似た体験をする人が対等な関係で支えあうことを意味しており、『がんピアサポート』とは、がん体験者ががん患者やその家族に寄り添い不安や悩みを軽減、解消するためのお手伝いを意味しています。

当院では、がん患者さま及びそのご家族、その他がん医療に対して関心をお持ちの方はどなたでも自由に参加いただける『がんサロン』を開催しています。がんサロンもピアサポートのひとつで、患者さま・ご家族同士の交流の場です。体調のこと、お薬のこと、日頃不安なこと等家族や医療者には話しにくい内容でも、患者さま・ご家族同士であれば共感し、共に考えることができることがあるかもしれません。がんサロンで一緒にお話しや情報交換をしてみませんか。

また、ピアサポートの一環として熊本赤十字病院ではがん患者さまの相談を同じような経験をしたがん患者さまがお聴きするピアカウンセリングという活動も行われています。

ピアサポートに限らず、がん相談支援センターでは、病気や治療についての情報や、今後の療養や生活について、地域の医療資源や社会資源について等がん医療に関する情報の提供や、相談をお受けしています。がん患者さま及びそのご家族をはじめ地域住民のみならず、より自分らしく、より充実した生活をしていただけるようご相談いただいた内容に応じて医師、薬剤師、管理栄養士、セラピストなど院内外の専門のスタッフと連携し、皆様のがん医療に関する疑問・不安・悩みを解決するお手伝いをさせていただきますので、気になる事がありましたらいつでもお声かけください。

地域医療連携室（がん相談支援センター）社会福祉士
福島 大志

病院ボランティアを募集しています

皆さまの貴重なお時間を、病院ボランティア活動として活かしてみませんか!!

活動内容

案内ボランティア…受付、診療科へのご案内
介助ボランティア…身体の不自由な患者さまの介助
園芸ボランティア…病院内の庭木、園芸の手入れなど
絵画ボランティア…絵画の展示等

募集するボランティア

対象者：18歳以上で心身ともに健康な方。
参加条件等：①目的を理解し、積極的に参加していただける方。②無報酬での活動となります。③ボランティア保険に加入していただきます。※保険料は当院が負担いたします。

活動日：月曜～金曜

📞 申込・お問合わせ先
山鹿市民医療センター 看護部 平山 恵
Tel：0968-44-2185（内線938）

外来担当医表

6月

| 診療科名 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | |
|------------------|----------------|------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|----------------|-------|
| 内科 | 永野 久俊 | — | 吉岡 明子 | 永野 久俊 | 永野 久俊 | |
| 呼吸器内科 (紹介外来制) | 坂田 典史 | 坂田典史・後藤英介 | 後藤 英介 | 坂田 典史 | 後藤 英介 | |
| 循環器内科 | 大庭 圭介 | 大庭 圭介 | ※1海北 幸一 | ※1藤末昂一郎(午後) | 大庭 圭介 | |
| 内分泌・代謝内科 | ※1小野 恵子 | 村田 雄介 | 村田 雄介 | 吉里 和晃 | 村田 雄介 | |
| 消化器内科 | ※1立山 雅邦 | — | — | ※1泉 和寛 | — | |
| 血液内科 | — | 島貫 栄弥 | — | — | 島貫 栄弥 | |
| 整形外科 (紹介外来制) | 高木 茂・工藤智志 | 工藤智志・立石慶和 | 手術 (担当医) | 高木 茂・立石慶和 | 手術 (担当医) | |
| 外科 | 大熊利之・豊永政和 | ※1村上 敬一 | 宮村 俊一 | 池上 克徳 | 飯田伸一・宮村俊一 | |
| 泌尿器科 | 結城 康平 | 山崎 浩藏 | 結城 康平 | ※1河野 吉昭 | 結城 康平 | |
| 小児科 | — | — | — | — | — | |
| セクショナル 器 | 耳鼻咽喉科 | — | 深見 直美 9:30~11:00 12時診察終了 | — | — | 土生健二郎 |
| | 眼科 | 田原 仁 | 田原 仁 | 田原 仁 | 田原 仁 | 田原 仁 |
| 産婦人科 | 福島 泰斗 井上 弘一 | 福島泰斗・井上弘一 片瀨美和子(午後) (第1・2・3) | 福島 泰斗 井上 弘一 | 福島泰斗・井上弘一 片瀨美和子(午後) (第1・4) | 福島 泰斗 井上 弘一 | |
| 総合診療科 | 本郷 弘昭 | 本郷 弘昭 | — | — | 本郷 弘昭 | |

◎診療時間は、8:30開始で11:00受付終了となります。予約変更の電話は、午後1時から4時までをお願いします。

※1は、熊本大学病院からの派遣医師。

特殊・専門外来

6月

| 名称 | 担当医 | 実施日 | 診察場所 |
|---------------------------|-----------------|-------------------------------|------|
| セカンドオピ ニオン外来 | 本郷 弘昭 | 毎週 月曜、金曜(午前) | 外科 |
| 禁煙外来 (予約制) | 坂田 和子 | 毎週 月曜(午後) | 内科 |
| 睡眠時無呼吸 外来 | 坂田 和子 | 毎週 火曜、木曜(午後) | 内科 |
| 乳腺外来 (化学療法外来) | ※1村上敬一 | 毎週 火曜 | 外科 |
| 女性外来 (婦人科、閉経期、更年期) | 片瀨美和子 | 毎週 第1・2・3火曜(午後) 第1・4木曜(午後) | 産婦人科 |
| ストーマ 外来 | 担当医 | 毎月 第3水曜(午後) | 外科 |
| PEG外来 | 担当医 | 毎週 水曜(午後) | 外科 |
| 緩和ケア 外来 | 坂田 典史 | 毎週 金曜(14:00~16:00) | 内科 |
| 糖尿病外来 | 村田 雄介 | 毎週 木曜(9:00~12:00) | 内科 |
| 両親学級(予約 制:産婦人科) | 助産師 | 第2・3・4日曜 (10:00~12:00) | 5階病棟 |
| 母乳外来(乳房 マッサージ) ※予約制 | (助産師:) 田中 妙子 | 月曜、木曜 (8:30~16:00) | 5階病棟 |

◎特殊・専門外来については、各診療科にお尋ねください。

◎セカンドオピニオン外来については、地域医療連携室にお尋ねください。

◎急患の場合は、この限りではありません。

ご注意:学会等の都合で変更になる場合があります。

◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

各専門職の立場から

ブレストケアチーム シリーズ 最終回(その2)

前回に引き続きのお話を致したいと思います。

乳がんの診断となった場合、早期癌でない限り手術だけで治療が完了することは少ないため、放射線治療、薬物療法などを行っていきます。残念ながら、山鹿市民医療センターでは、放射線治療およびアイソトープ検査(骨シンチグラフィ、センチネルリンパ節生検)の設備がないため、今後の拡充が望まれますが、薬物治療については外来化学療法室が稼働しており、術前・術後の薬物治療や進行・再発乳がんに対する薬物療法が可能となっております。手術や検査、放射線治療などについては、熊本大学医学部附属病院や熊本再春荘病院との連携で乳がん診療を行っております。

手術や放射線治療が終了した後の、5年間ほどの内分泌療法などについては、当科で継続して施行されている方が大勢いらっしゃいます。

乳がんの治療をされた方は、5年間ほどの治療期間が終了した後も、新しい乳がんが発生する確率が、一般の方の6倍ほどあるため、毎年定期的にマンモグラフィを行うことが勧められます。当院でも、乳がん治療後の方が大勢おられ、年に1回、必ず受診されております。お元気な顔を拝見するとともに、新しい乳がんについての心配に備えるようにしています。

これから、乳がん診療もますます進歩していくことが予想されておりますが、そうした最新医療が当院でも行っていけるよう努力してまいりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

ブレストケアチーム 担当:乳腺外科医師 村上 敬一